

2010年度採択 研究推進プログラム「基盤的研究」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：国際関係学部教授 氏名：中川涼司
研究課題	中国IT企業家とベンチャー・キャピタル

・研究計画の概要

研究の計画について、概要を記入してください。

研究の背景（学術研究、技術開発等の動向や社会的背景との関連性）

企業家（ないし企業者 entrepreneur）はシュムペーターのいう「イノベーション」ないし「創造的破壊」の担い手として規定される。では、そのような企業家はどのようにして歴史的・社会的に形成されるのであろうか。これにはいくつかの仮説があるが、本研究が着目するのは、アナリー・サクセニアンによって新たに提起された「頭脳還流（brain circulation）モデル」である（Saxenian[2006]）。驚異的な発展を遂げる中国のIT産業の企業家達はどのように類型化され、特徴付けられるのだろうか。また、企業家達の類型はビジネス・モデルに如何に反映しているのだろうか。これらは中国のIT産業発展の特徴を解明する上でも極めて重要な点となっている。

研究目的と必要性、意義

本研究はサクセニアン等の研究に触発されたIT産業発展を人的側面から捉えようとするものである。申請者はすでに、中国のIT産業の各業界の企業家たちのプロファイリング作業を行い、その分類作業を行ってきた。すなわち、中国のIT企業家を3つの世代区分と国内キャリア組、海外帰国組、(台湾を含む)外国人という経歴とを組み合わせた9つのセルへ分類し、さらに所有者型(O型)、内部経営者型(M型)、職業経営者型(P型)の区分を行う、という方法である。この方法で得られた結論は海外帰国者が直接あるいは参照モデルとして影響を行使し、ビジネス・モデルの変化を主導していることなど、サクセニアンの「頭脳還流モデル」に適合的な諸側面がある一方で、有力経営者においてすら海外帰国者が多数とはいえないことなどサクセニアンモデルに適合的でない側面も多く、海外帰国者の人的移動とビジネス・モデルとは区別して考える必要があるということであった。今回の申請はさらにこれらの研究を進展させ、中国IT企業家とベンチャー・キャピタルの関わりを明らかにすることで、中国第三世代IT企業家の特色をより鮮明にしようとするものである。

・研究成果の概要

研究成果について、概要を記入してください。

10th Conference of International Federation of East Asian Management Associations (IFEAMA)
(Date: Seoul, 21-22 October 2010, Place: International Conference Room, Paiknam Academic Information Center & Library Hanyang University, Seoul Campus)においてChinese IT Entrepreneurs and Their Business Models: A Review on A. Saxenian's Brain Circulation Modelと題した発表を英語で行った。

また英文で“Generational Change in Chinese ICT Entrepreneurs and their Business Models: A Review of A. Saxenian's Brain Circulation Model”『立命館国際研究』第23巻第2号、2010年10月を執筆、発表した。

2010年の日中間の経済関係のレポートである日中経済協会『日中経済交流2010』の「情報通信機器」の部分を分担執筆した。